

第二章 北斗市の観光を取り巻く現状と課題

1 国の動向

国は、「明日の日本を支える観光ビジョン」（平成28年3月30日明日の日本を支える観光ビジョン構想会議決定）を踏まえ、観光立国の実現に関し、総合的かつ計画的に講ずべき施策を推進するための基本的な計画として「観光立国推進基本計画」を策定し、平成29年3月28日に閣議決定したところです。

同計画には、観光立国の実現に関する施策についての基本的な方針や目標とともに、国が総合的かつ計画的に講ずべきと示された具体的な施策等について定められ、国はこの計画に基づいて、観光立国の実現に関する施策を推進しています。

■観光立国推進基本計画

基本的な方針	1. 国民経済の発展 －観光が、日本経済を牽引し、地域を再生する－ 2. 国際相互理解の増進　－観光が、真に開かれた国をつくる－ 3. 国民生活の安定向上　－観光が、明日への活力を生む－ 4. 災害、事故等へのリスクへの備え　－安全・安心な観光の実現と東北の観光振興－
計画期間	4年間 ※従来の計画は5年間の計画期間としていましたが、観光ビジョンの目標年次や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を踏まえ、平成32年度までを新たな計画の計画期間としています。
観光立国の推進に関する目標	<2020年までの目標値> ●国内旅行消費額：21兆円【平成27年実績値：20.4兆円】 ●訪日外国人旅行者数：4,000万人【平成27年実績値：1,974万人】 ●訪日外国人旅行消費額：8兆円【平成27年実績値：3.5兆円】 ●訪日外国人旅行者に占めるリピーター数：2,400万人【平成27年実績値：1,159万人】 ●訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数： 7,000万人泊【平成27年実績値：2,514万人泊】 ●アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合： 3割以上・アジア最大の開催国【平成27年実績値：26.1%・アジア最大】 ●日本人の海外旅行者数：2,000万人【平成27年実績値：1,621万人】

資料：観光庁

2 北海道の観光動向

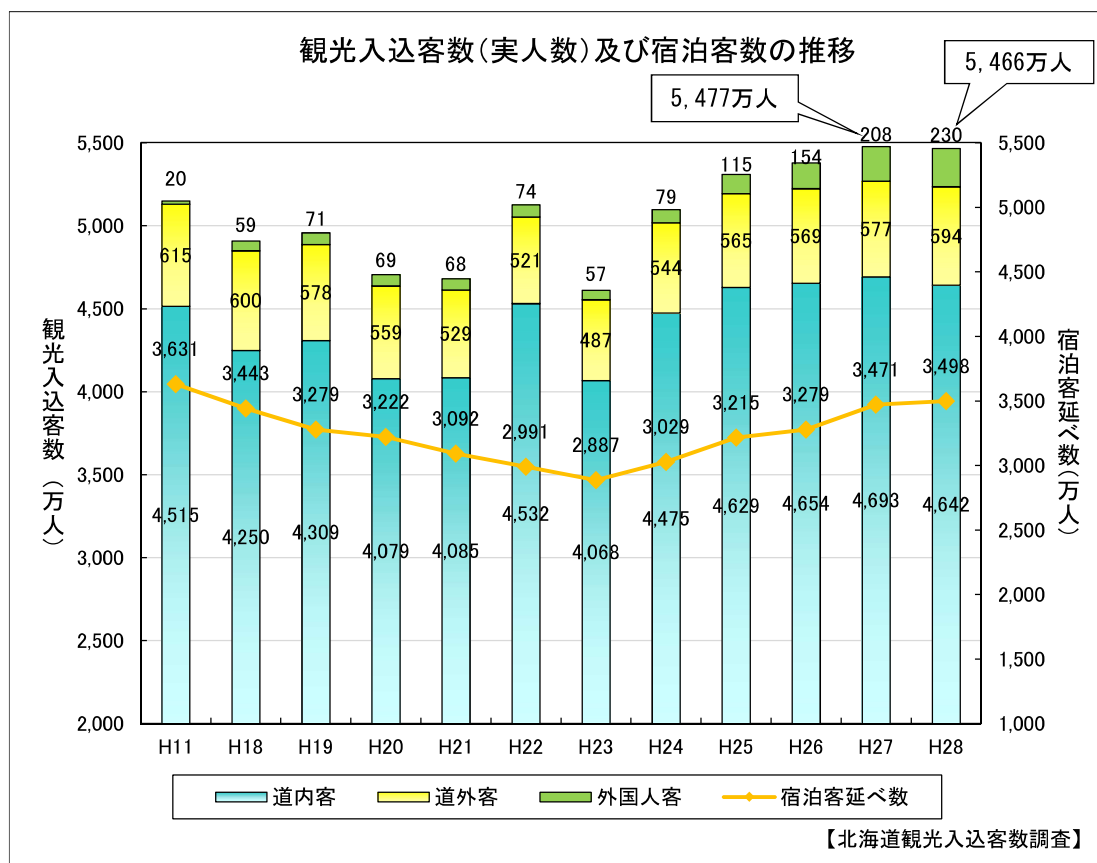
(1) 観光入込客数の推移

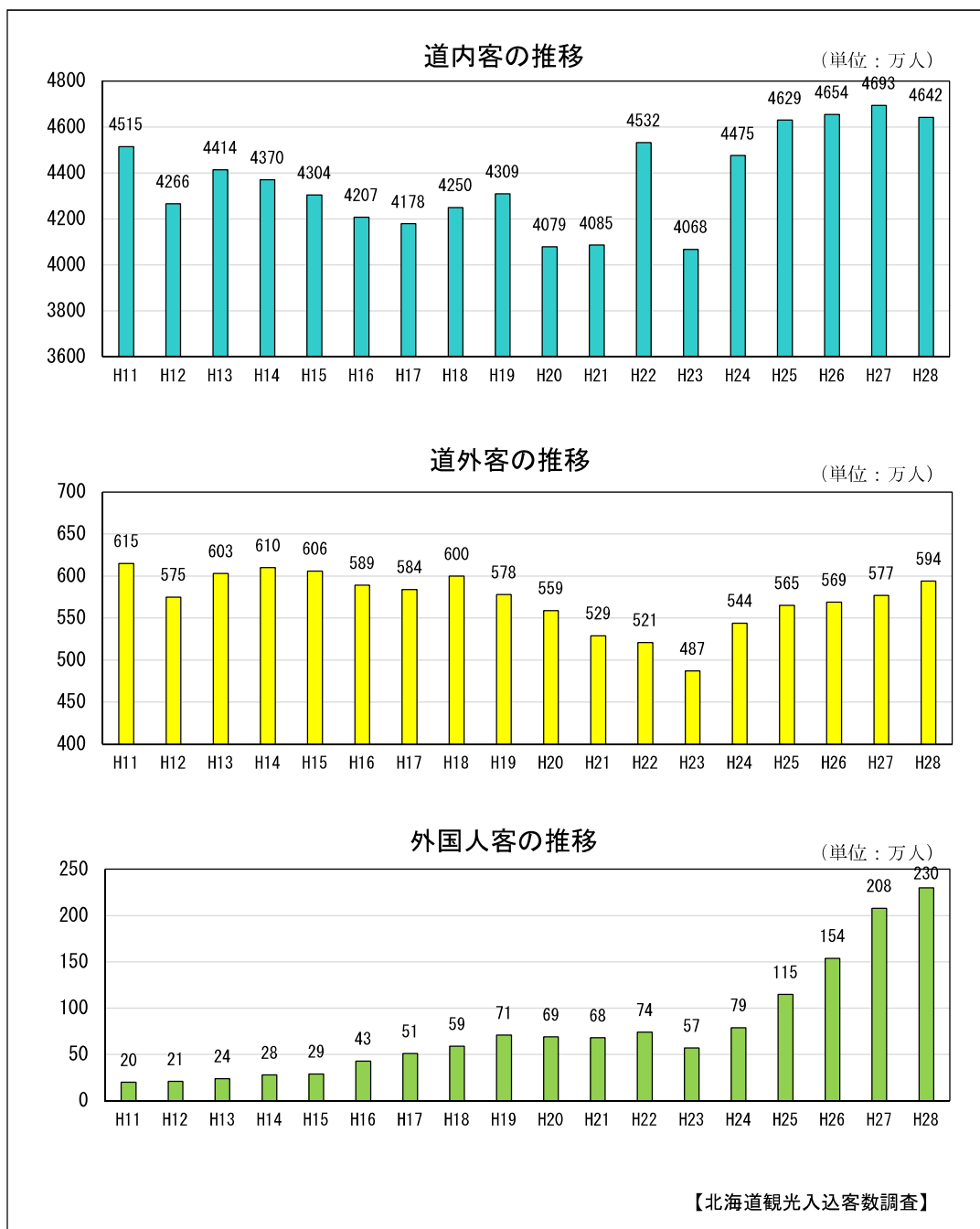
■観光入込客数、外国人来道者数ともに増加基調

北海道の観光入込客数(実人数)は、平成23年度は東日本大震災の影響などにより落ち込みましたが、平成24年度は観光需要が回復基調に転じ、さらに平成25年度以降は景気の回復に伴い、国内外の観光需要が堅調に推移したことなどから、平成27年度は5,477万人となり過去最高を更新しました。平成28年度は北海道新幹線開業があったものの、相次いで接近・上陸した台風の影響などから前年度に達せず5,466万人となりました。

観光入込客数が増加基調にある中、観光消費額の高い道外客の入込は、平成11年度の最高値(615万人)を超えておらず、伸び悩みの傾向にあります。また、北海道の延べ宿泊者数は3,498万人泊(前年度比0.8%増)で、全国(49,239万人泊)の7.1%を占めており、都道府県別では東京都に次いで第2位となっています。

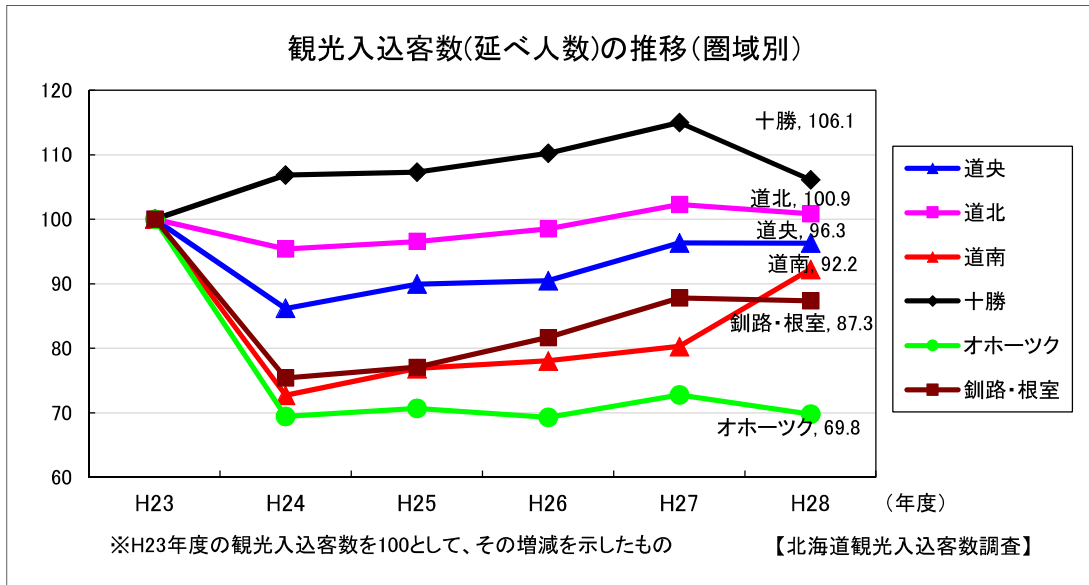
訪日外国人来道者数は、平成25年度以降、国際定期便の新規就航や増便、査証要件の緩和、免税制度の拡充、円安基調の継続などから回復し、平成28年度は230万人(前年度比10.6%増)と、過去最高を更新し、日本全体の訪日外国人旅行者2,482万人の9.3%を占めています。





■圏域別では十勝圏、道北圏が増加

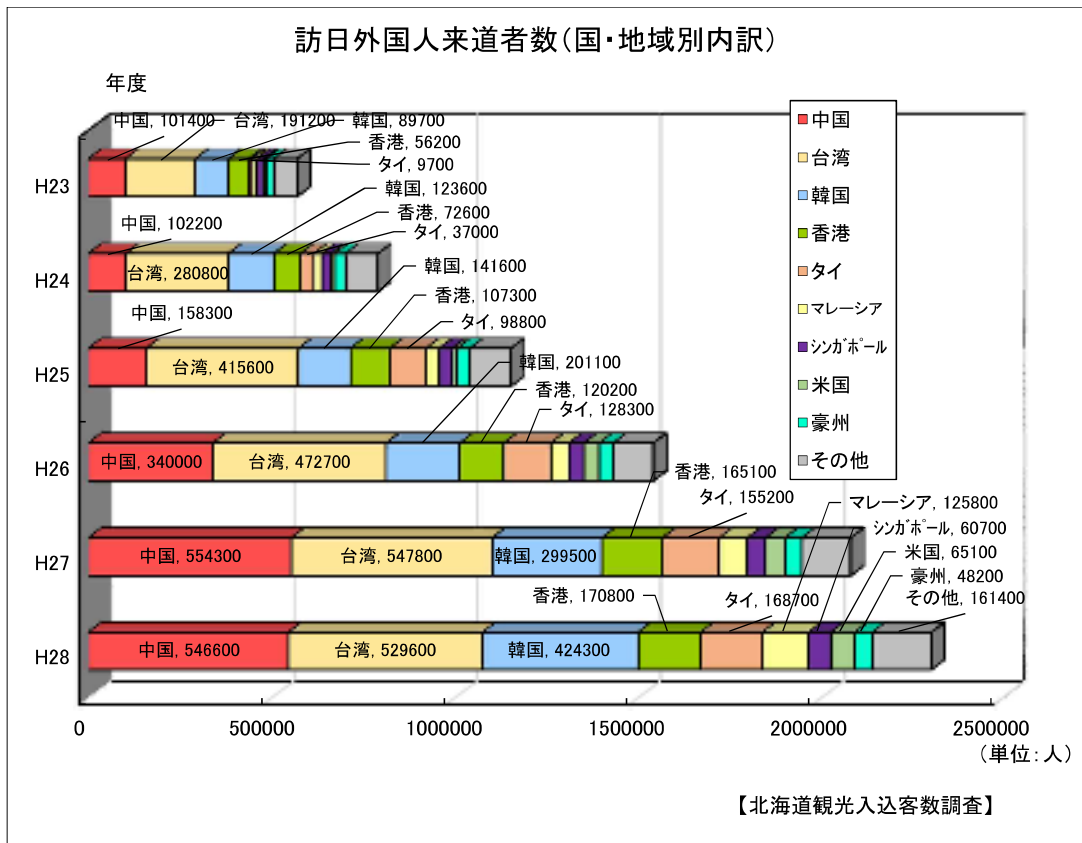
圏域別にみると、6圏域とも平成23年度以降は増加傾向にあるものの、平成11年度の入込客数を100とすると、十勝圏(106.1)、道北圏(100.9)は増加していますが、他の4圏域は減少しています。十勝圏の伸びは、道東道の開通による交通アクセス向上の効果などが大きいと考えられます。前年度と比較すると、北海道新幹線の開業効果を大きく受けた道南圏が増加しましたが、他の5圏域は台風等の影響により前年度を下回りました。



■著しい伸びのアジア地域

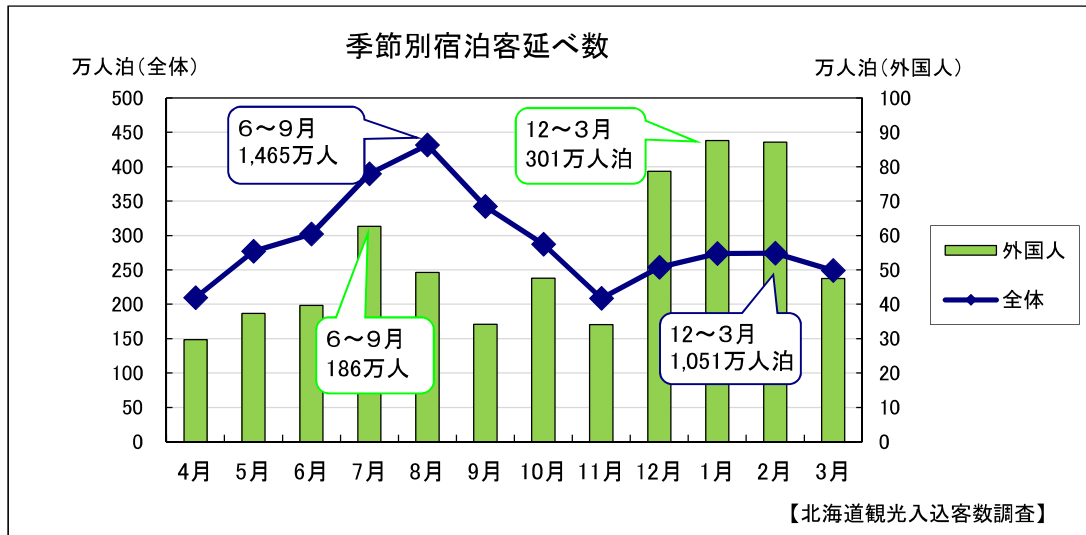
平成28年度に本道を訪れた外国人観光客は、国際定期便の新規就航や増便などから前年度に比べて10%増加し、230万人となり、過去最高を更新しました。

国・地域別にみると、大きな割合を占める中国、台湾の伸びが一服した一方、北海道人氣が高まっている韓国が前年度比42%増と大きく伸びました。



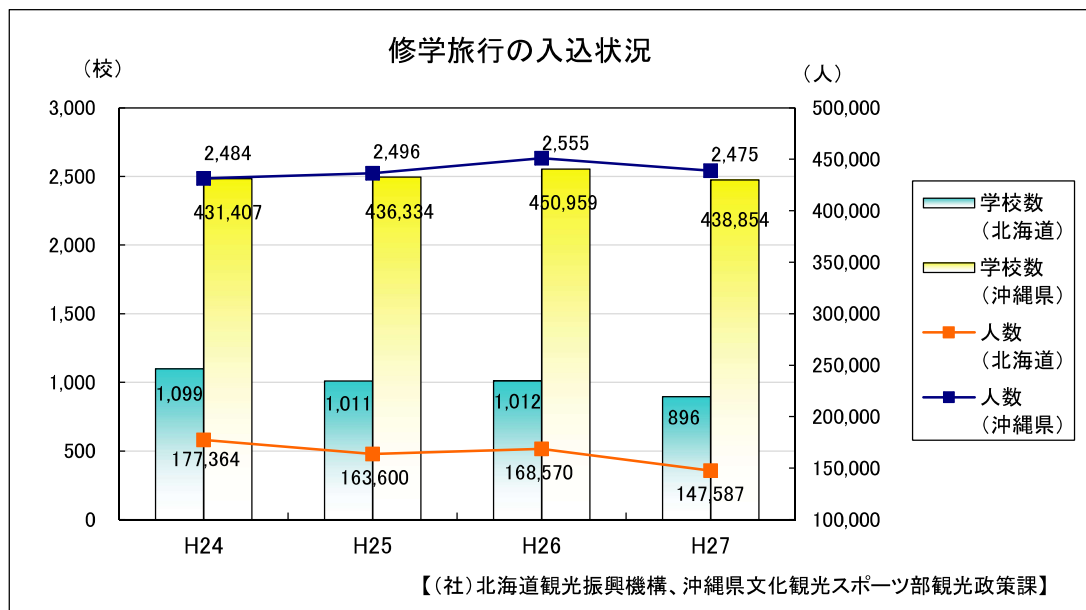
■夏季に集中する観光客

平成28年度の観光客の延べ泊数（3,498万人泊）を季節別にみると、年間の約4割が夏季（6～9月）に集中し、冬季（12～3月）は約3割にとどまっています。一方、外国人は、夏と冬の2つのピークがあることがわかります。



■修学旅行の受入

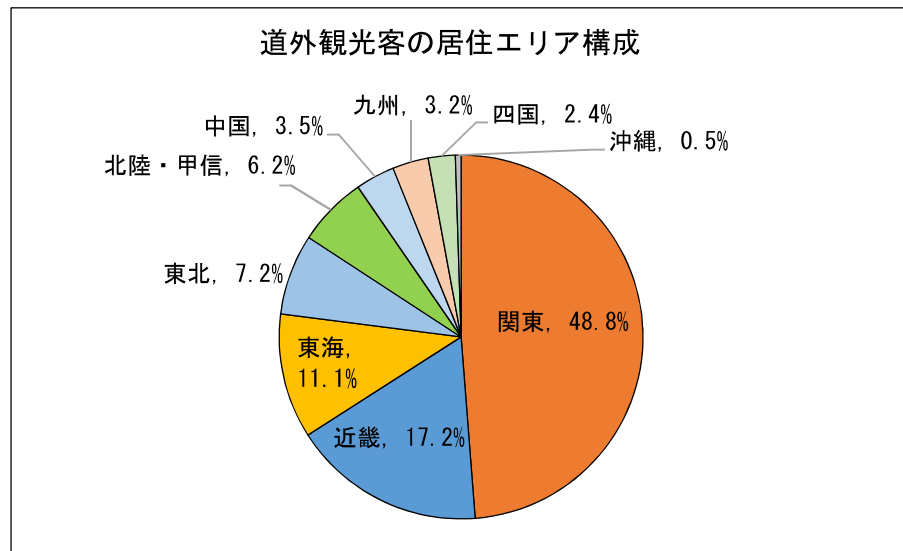
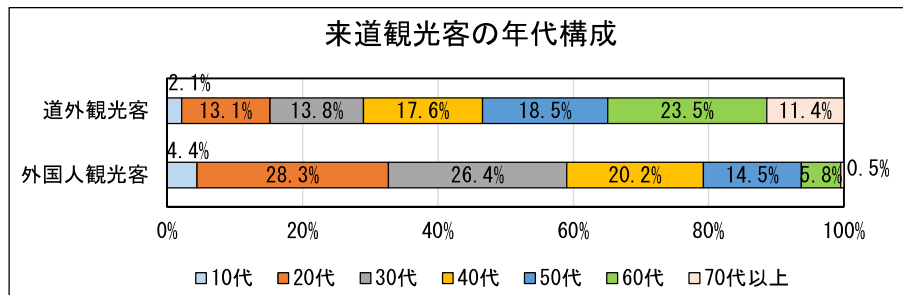
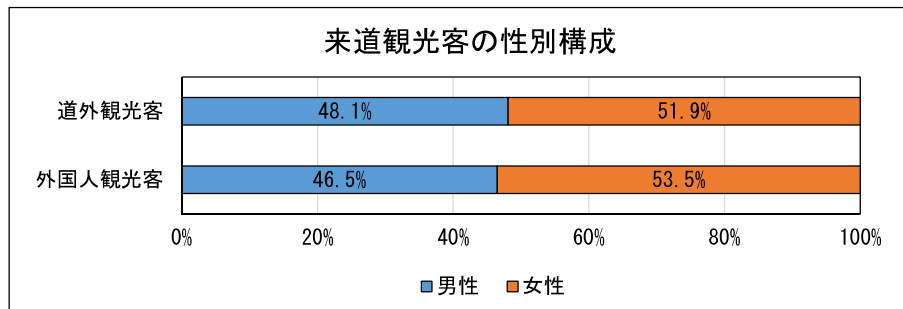
北海道への修学旅行は、平成23年度に震災の影響による旅行先の道内への振替などから増加しましたが、平成24年度以降は減少傾向にあります。旅行業者等によると、北海道への修学旅行は平成11～12年頃までは全国トップクラスであったものの、平成15年度以降は沖縄県へのシフトが進み、現在では沖縄県の半数以下に減少しています。



(2) 観光客の動態

■来道観光客の属性

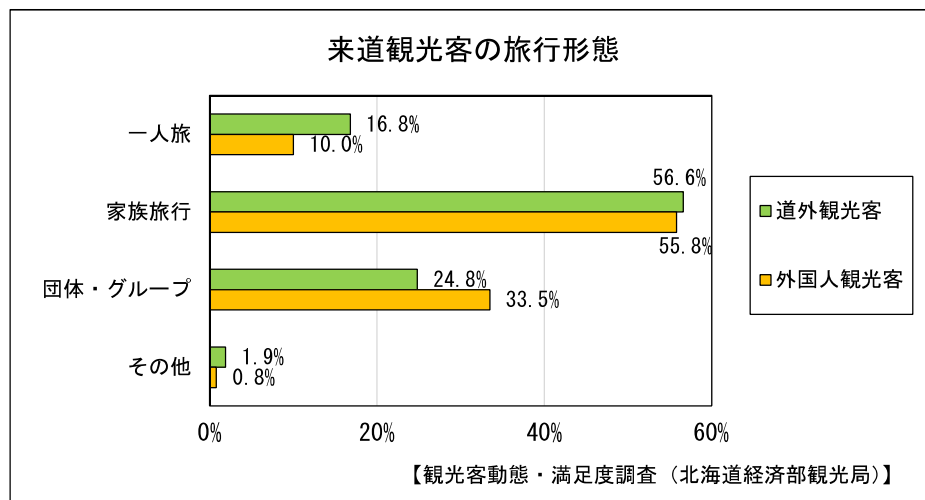
北海道を訪れる観光客の属性をみると、道外及び外国人観光客ともに性別では、男性より女性が多くなっています。年齢別では、外国人観光客の方が比較的若い年代が多く、20代、30代、40代の順で多いのに対し、道外の観光客は、60代が最も多く、50代、40代の順となっている。道外から来る観光客の居住地では、関東が48.8%と群を抜いて多くなっています。



【観光客動態・満足度調査（北海道経済部観光局）】

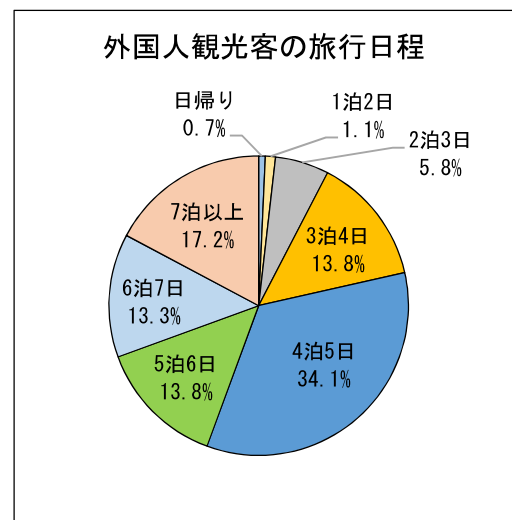
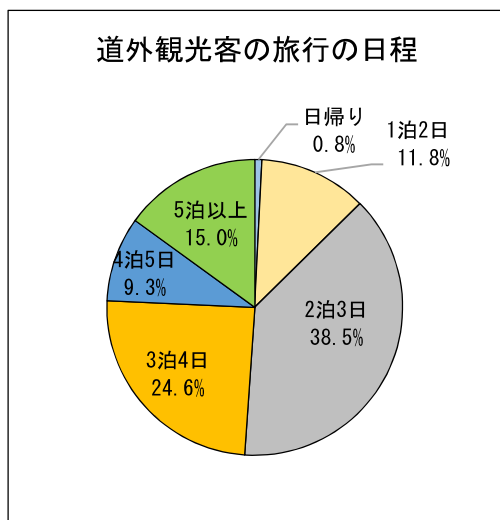
■家族旅行が大半

来道観光客の旅行形態をみると、家族旅行が大半を占めており、外国人観光客については、団体・グループも全体の3分の1を占めていることから、FIT化の流れの中でも、団体旅行の需要についても一定程度あるものと思われます。



■外国人観光客は長期滞在者が多い

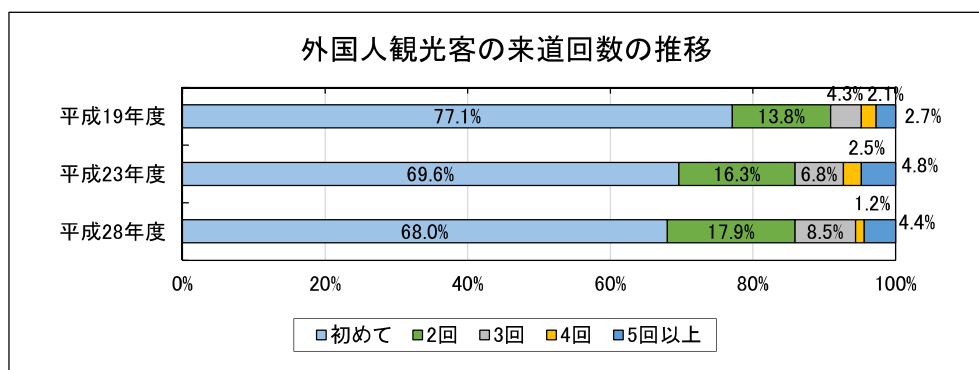
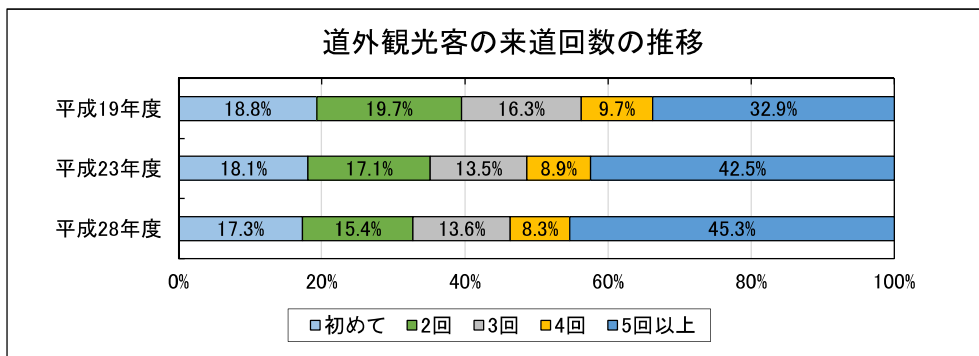
来道観光客の旅行日程をみると、道外の観光客で最も多い日程が2泊3日、次いで、3泊4日となっています。また、外国人観光客は、4泊5日が最も多く、次いで、7泊以上と長期滞在者が多い傾向にあります。



【観光客動態・満足度調査（北海道経済部観光局）】

■道外観光客の8割がリピーター、外国人のリピーターも増加

道外の観光客のうち、80%以上が過去に北海道を訪れた経験があるリピーターで、5回以上の来道経験を持つ「北海道ファン」は45%を超えている。また、外国人観光客のリピーターも増加傾向にあります。



【観光客動態・満足度調査（北海道経済部観光局）】

■自然や花の人気の上昇

道外の観光客の目的では、「都市観光」、「自然鑑賞」、「特産品の買物・飲食」、「温泉・保養」が上位を占めている状況に変化はありませんが、「花の名所めぐり」の人気の高まってきています。外国人観光客の目的では、自然に対する観光需要が高まっており、全体の約8割が行程の中で「自然鑑賞」をしているという結果になりました。

<道外観光客の旅行目的の推移>

■平成28年度

1 都市観光	53.9%
2 自然観賞	45.7%
3 特産品の買物・飲食	35.4%
4 温泉・保養	32.7%
5 花の名所めぐり	14.4%
6 動物園・水族館	14.3%
7 ショッピング	13.7%
8 ドライブ	13.4%
9 道の駅めぐり	9.7%
10 テーマパーク・遊園地	3.7%

■平成23年度(参考)

1 都市見物・観光名所めぐり	
2 自然観賞	
3 特産品の買物・飲食	
4 温泉・保養	
5 ショッピング	
6 動物園・水族館	
7 ドライブ	
8 道の駅めぐり	
9 イベント参加・見学	
10 花の名所めぐり	

■平成19年度(参考)

1 都市見物・観光名所めぐり	
2 自然観賞	
3 温泉・保養	
4 特産品の買物・飲食	
5 テーマパーク・遊園地	
6 イベントへの参加・見学	
7 花の名所めぐり	
8 ドライブ	
9 スキー・スノーボード	
10 美術館など文化施設めぐり	

【観光客動態・満足度調査（北海道経済部観光局）】

<外国人観光客の旅行目的の推移>

■平成 28 年度

1	自然観賞	79.4%
2	都市観光	62.3%
3	温泉・保養	53.4%
4	特産品の買物・飲食	49.4%
5	ショッピング	40.1%
6	花の名所めぐり	26.0%
7	動物園・水族館	13.9%
8	道の駅めぐり	7.1%
9	スキー・スノーボード	6.7%
10	産業遺産・工場見学などの産業観光	4.6%

■平成 23 年度(参考)

1	都市見物・観光名所めぐり
2	温泉・保養
3	自然観賞
4	ショッピング
5	特産品の買物・飲食
6	花の名所めぐり
7	動物園・水族館
8	スキー・スノーボード
9	イベント参加・見学
10	道の駅めぐり

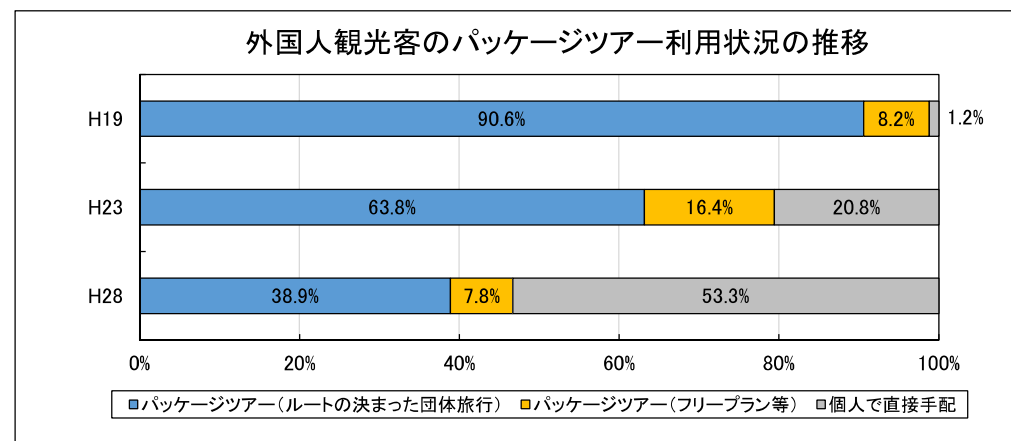
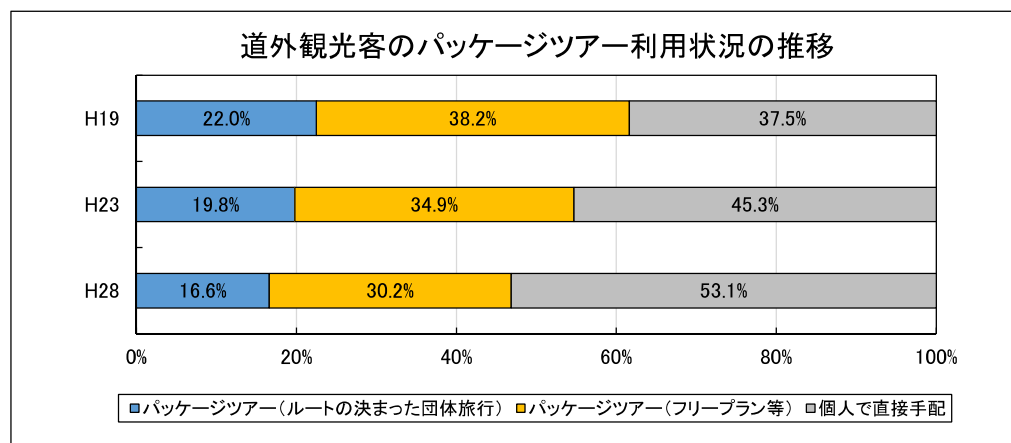
■平成 19 年度(参考)

1	自然観賞
2	温泉・保養
3	買い物
4	都市見物・観光名所めぐり
5	名物の飲食
6	花の名所めぐり
7	冬のイベント(雪や氷)
8	スキー・スノーボード
9	テーマパーク・遊園地
10	夏のイベント

【観光客動態・満足度調査(北海道経済部観光局)】

■パッケージツアーの利用者は減少

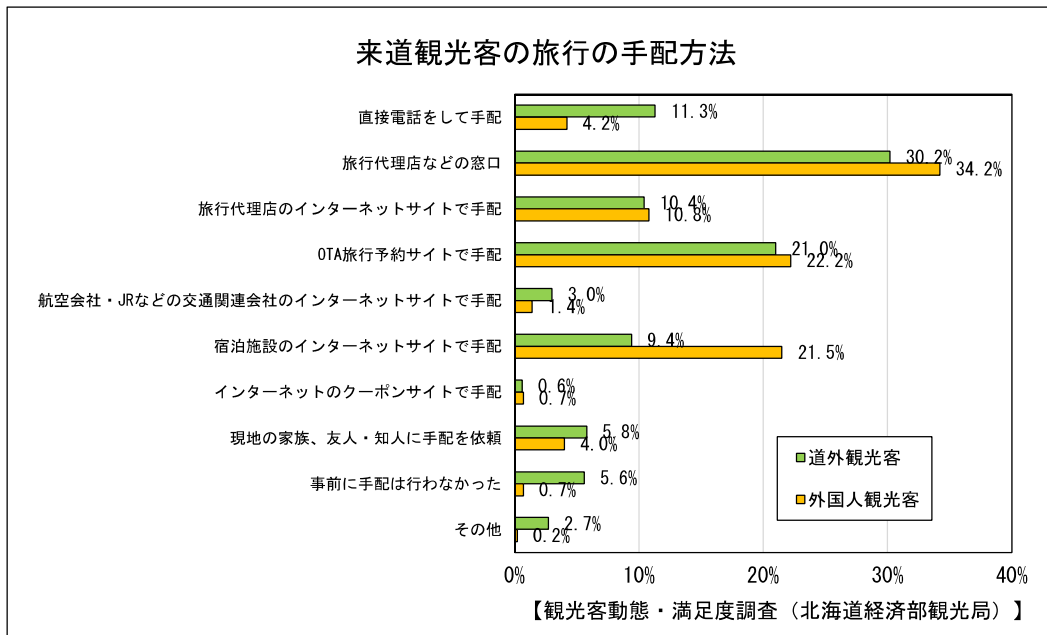
パッケージツアーの利用状況をみると、道外の観光客、外国人観光客ともに「個人で直接手配」が増加傾向にあり、特に、外国人観光客のFIT化が顕著に見られる結果となっています。



【観光客動態・満足度調査(北海道経済部観光局)】

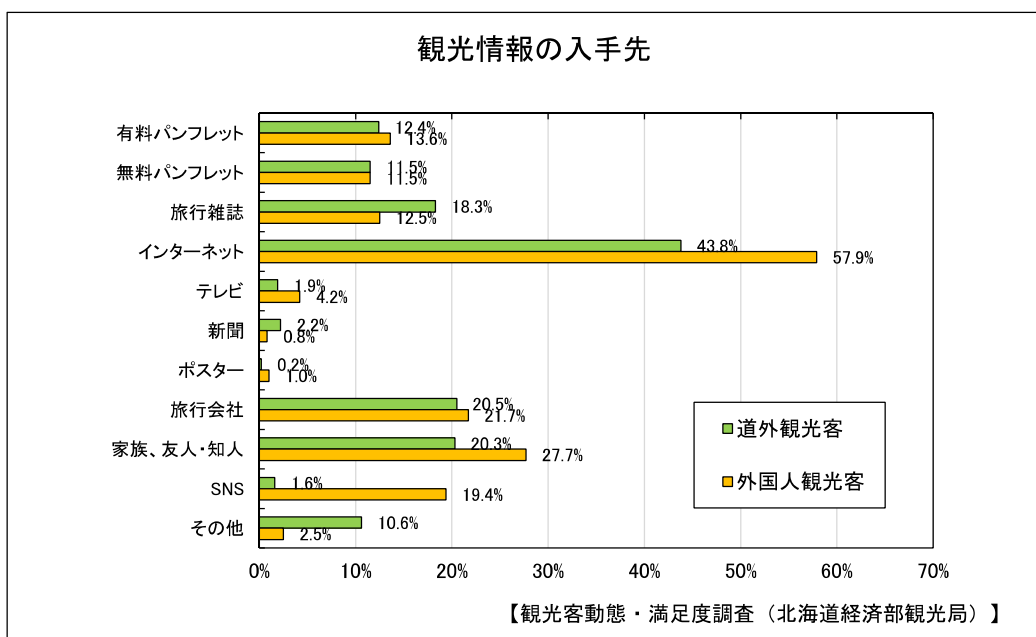
■ネット化が進む一方で窓口手配も健在

宿泊先の手配方法をみると、「インターネット」を利用した割合が道外の観光客で44.4%、外国人観光客で56.6%と最も多い一方、「旅行代理店などの窓口」で手配した割合は、道外の観光客で30.2%、外国人観光客で34.2%という結果となりました。



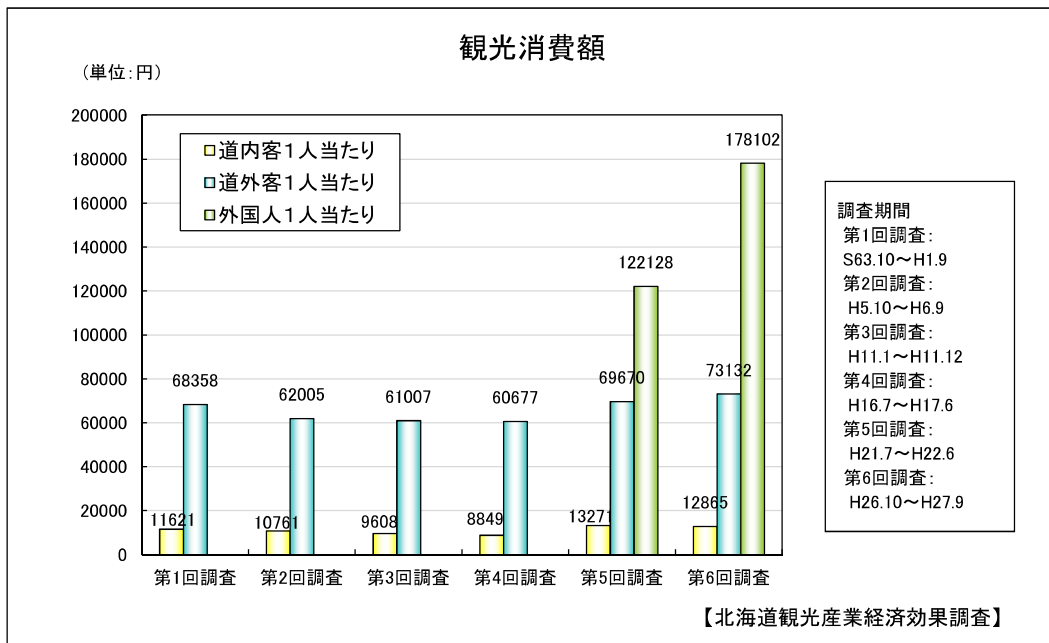
■旅行情報の入手先もインターネット

旅行情報の入手先をみると、道外の観光客、外国人観光客ともに「インターネット」が最も多い結果となりました。



■観光消費額単価

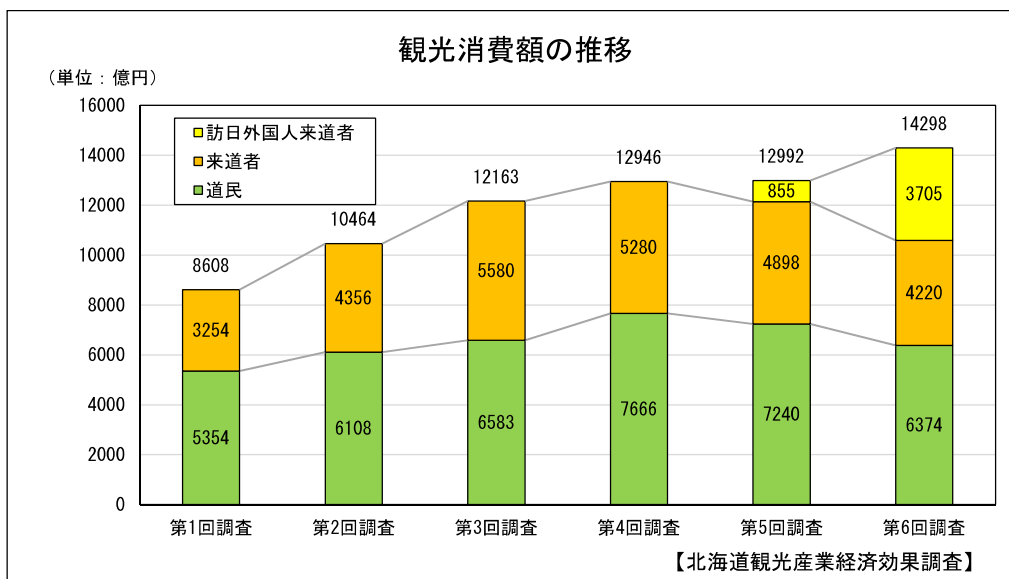
観光客が1回の観光行動で消費する金額をみると、道内客は12,865円、道外客は73,132円、訪日外国人来道者は178,102円となりました。



(3) 観光産業の状況

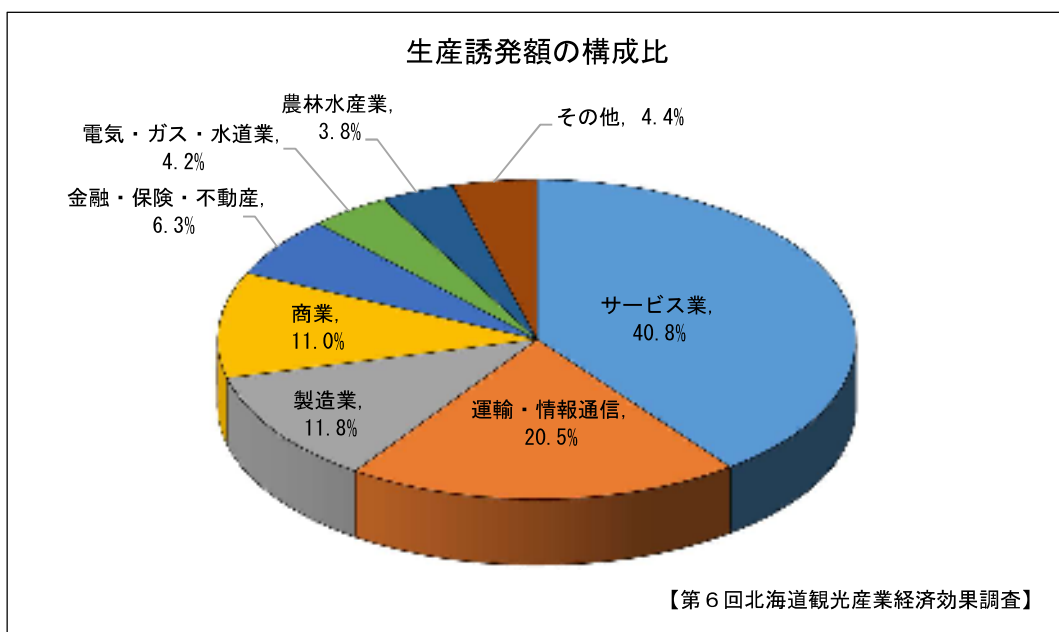
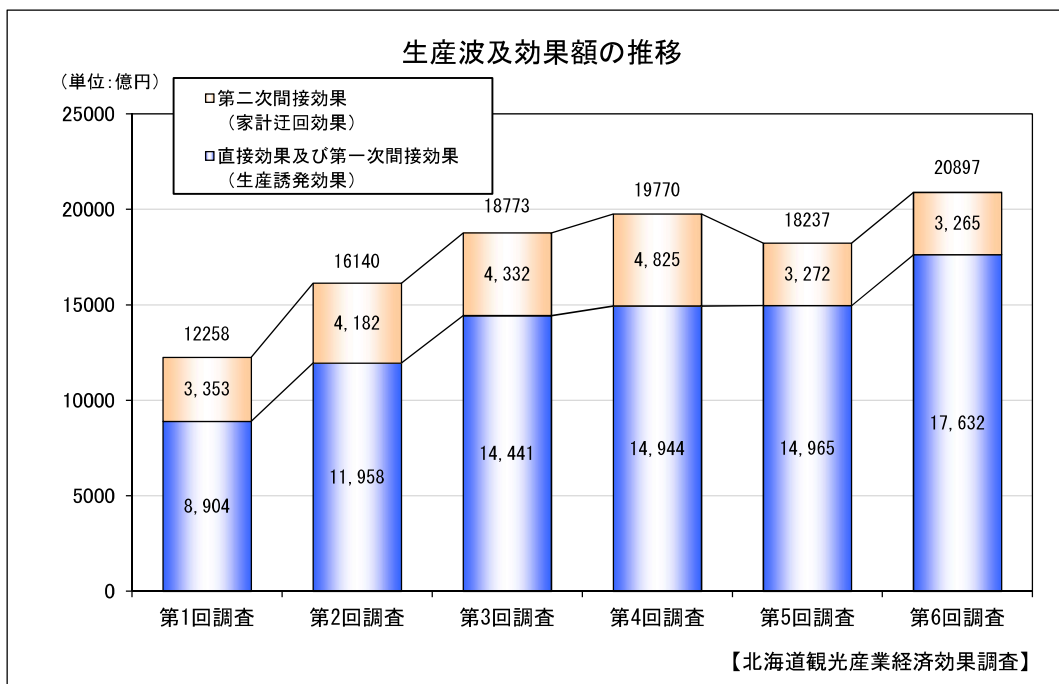
■観光消費額は増加基調

北海道の総観光消費額は1兆4,298億円で、第1回調査以来ほぼ増加基調にあります。このうち道民による消費額は6,374億円、来道者による消費額は4,220億円、訪日外国人来道者による消費額は3,705億円となっている。



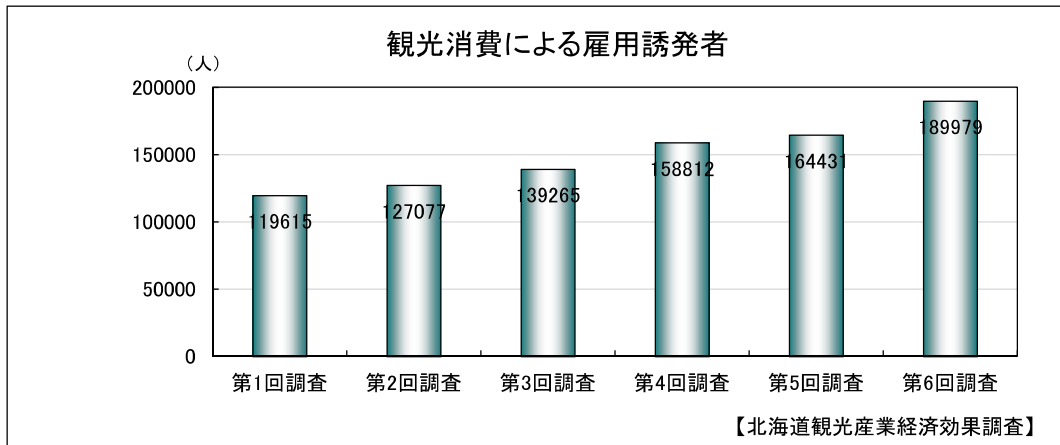
生産誘発額は2兆897億円と推計され、このうち観光消費によって道内での原材料やサービスの生産に波及する直接効果と第一次間接効果の和が1兆7,362億円、観光消費がもたらす雇用者の所得の増加が道内での新たな消費を生み出し、生産に波及する第二次間接効果が3,265億円と推計されました。

観光消費がもたらす生産波及効果はサービス業、運輸・情報通信業、製造業をはじめとする様々な産業に波及しています。



■雇用効果は19万人

観光消費による2兆897億円の生産誘発額は、189,979人の雇用効果を生み出すと推計されました。これは平成26年度道民経済計算における道内就業者数235万4千人の8.1%に相当します。



■宿泊業の状況

平成29年3月末現在、北海道で旅館業法の許可を受けているホテル、旅館、簡易宿所は4,830施設となっています。また、観光庁の宿泊旅行統計調査によると、従業者10人以上の宿泊施設は665施設(平成29年1月現在)であることから、道内の宿泊施設の8割以上が従業者9人以下の小規模な施設であるといえます。

平成23年度と比較すると、ホテルは施設数で2.4%、定員数で11.4%増加していますが、旅館はそれぞれ14.5%、13.4%減少しています。全体では、施設数、定員数ともほぼ横ばいとなっています。

宿泊施設と定員数の推移

(単位：件、人、人泊)

区分		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	H28/H23
ホテル	施設数	679	684	681	689	679	695	102.4%
	定員	120,834	122,861	124,559	126,121	128,024	134,645	111.4%
うち都市部	施設数	385	384	384	390	375	384	99.7%
	定員	74,456	75,905	77,045	79,805	80,423	84,620	113.7%
旅館	施設数	2,622	2,551	2,482	2,391	2,285	2,241	85.5%
	定員	166,348	162,511	157,970	151,939	148,146	144,095	86.6%
うち都市部	施設数	542	520	519	502	453	441	81.4%
	定員	41,678	41,249	41,213	39,924	38,684	36,660	88.0%
簡易宿所	施設数	1,600	1,603	1,645	1,720	1,770	1,894	118.4%
	定員	32,007	32,094	32,857	34,180	34,636	37,028	115.7%
うち都市部	施設数	205	201	209	217	206	229	111.7%
	定員	5,764	5,558	6,006	6,284	6,232	7,095	123.1%
合計	施設数	4,901	4,838	4,808	4,800	4,734	4,830	98.6%
	定員	319,189	317,466	315,386	312,240	310,806	315,768	98.9%
うち都市部	施設数	1,132	1,105	1,112	1,109	1,034	1,054	93.1%
	定員	121,898	122,712	124,264	126,013	125,339	128,375	105.3%

※1 都市部：札幌市、小樽市、函館市、旭川市、網走市、帯広市、釧路市

※2 各年度 3月末現在

【北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課】

■旅行業者の状況

道内に主たる営業所がある旅行業者の登録数は、平成29年3月末現在325となっており、前年度より増加しています。

登録区分	登録行政庁	業務の範囲	H26年度	H27年度	H28年度
第1種	観光庁長官	・海外・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	21	21	22
第2種	北海道知事	・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	107	113	115
第3種	北海道知事	・国内（区域限定）の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	129	135	148
地域限定	北海道知事	・国内（区域限定）の募集型企画旅行 ・国内（区域限定）の受注型企画旅行 ・国内（区域限定）の手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	7	8	7
代理業	北海道知事	・受託契約に基づく代理販売	33	33	33
計			297	310	325

※各年度、3月末

【国土交通省北海道運輸局・北海道経済部観光局】

■旅客運送業の状況

平成27年度の旅客輸送人員を平成22年度と比較すると、道内においては、JR、鉄道・軌道、船舶及び航空が増加した一方、自動車は減少しました。道内一道外間においては、航空、船舶が増加した一方、JRは減少しています。

道内主要空港の航空機輸送実績については、東京・関西方面とも輸送人員は平成23年度まで減少傾向にありましたが、平成24年度から増加傾向となっています。

期間別輸送人員の推移（道内）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H27/H22
JR	125,497	127,600	129,668	132,640	130,168	133,001	106.0%
鉄道・軌道	215,573	214,629	219,897	224,614	227,760	231,794	107.5%
自動車	322,304	317,708	317,271	318,344	310,585	309,850	96.1%
船舶	1,573	1,422	1,515	1,551	1,483	1,603	101.9%
航空	638	621	591	666	674	674	105.6%
合計	665,585	661,980	668,942	677,815	670,670	676,922	101.7%

期間別輸送人員の推移（道内一道外）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H27/H22
JR	1,480	1,321	1,458	1,466	1,369	1,379	93.2%
船舶	1,695	1,723	1,729	1,730	1,663	1,725	101.8%
航空	18,064	17,350	19,112	20,173	20,377	21,132	117.0%
合計	21,239	20,394	22,299	23,369	23,409	24,236	114.1%

【数字で見る北海道の運輸（北海道運輸局）】

■貸し切りバスの状況

平成27年度の貸切バス(観光バス)の事業実績を平成22年度と比較すると、業者数は減少していますが、車両数、輸送人員は増加しており、走行キロはほぼ同水準となっています。

貸し切りバスの事業実績

(台・千キロ・千人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H27/H22
業 者 数	267	268	263	264	258	261	97.8%
車 両 数	2,838	2,767	2,757	2,888	3,003	3,133	110.4%
走 行 キ ロ	102,789	92,707	103,515	110,570	105,468	104,379	101.5%
輸 送 人 員	14,880	14,950	16,169	180,369	17,443	16,505	110.9%

【数字で見る北海道の運輸(北海道運輸局)】